

2019年8月19日

令和元年 資源・環境関連材料部会第1回討論会 開催報告

討論会担当 前田浩孝

◎日時 2019年6月20日(木) 12:55~17:45

◎主催 公益財団法人 日本セラミックス協会 資源・環境関連材料部会

◎協力 公益財団法人 日本セラミックス協会 基礎科学部会、中国四国支部

◎場所 岡山大学津島キャンパス創立五十周年記念館

◎主旨 資源、環境技術に関する研究成果の発信・議論、研究者の交流・情報共有のため、2019年度から新たに討論会を設けました。また、将来的な異分野連携を見据え他分野で活躍される先生や、翌日開催の見学会との連携した先生により話題を提供いただき、研究の多角化や研究者の交流の活性化を目指すものです。

◎参加費(講演要旨集、消費税込み)

一般	3,000円
学生	2,000円
意見交換会	3,000円

◎特徴

- ・若手研究者による発表・討論。
- ・岡山大学の島内先生を講師にお招きし、「Bio-inspired ソフト界面を活用する反応場設計と環境低負荷プロセスへの展開」について特別講演の実施。
- ・岡山理科大学の草野先生を講師にお招きし、「土と炎が織りなす芸術の科学 一備前焼「緋襷」模様と金彩備前焼について-」について見学会連携企画を実施。
- ・部会役員を選考による最優秀発表賞1件(大阪大学・近藤 吉史 様)、優秀発表賞2件(岡山大学・長尾 正昭 様、京都工芸繊維大学・木谷 友子 様)を表彰。対象者には賞状の授与。
- ・参加者数28名(講師2名含む)、一般講演13件

◎開催結果

各発表に対して活発な質疑応答が行われ、第1回討論会として良いスタートができたものと考えている。より深い議論を行ううえで、発表時間の調整やインターミッションの設置など今後の検討課題となった。

特別講演はソフト界面を活用する触媒設計・開発に関するものであり、界面における水和水の評価などの分析手法は、セラミックス研究においても応用できるものであった。ここで得た知見と、セラミックス科学を融合することで、新しい展開が期待できると考えている。見学会との連動企画は、備前焼の基礎知識だけでなく、先進研究から金彩の再現成功に至るアプローチは大変興味深く、古くから伝わる技法の中にまだ見ぬ新しい科学が見出されることを感じることもできるものとなった。

多様化する環境問題において、将来を見据えた資源・環境技術には異分野連携が重要になると考えられ、特別講演や見学会連携企画の継続的な取り組みが必要になると思われる。



井須部会長による開会の様子



島内先生による特別講演の様子